

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 87を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇日本のお祭りシリーズ（その9） ー八戸「えんぶり」ー

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 87を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

12月13日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は[PVC News No.87](#)を発行しました。今号の「インフォメーション」は、仙台で開催した「震災から3年、住まいエンベロップ・デザインを改めて考えるシンポジウム」を紹介しています。

No. 87号の構成は以下の通りです。

○トップニュース

特集/PVC Design Award 2013

大賞は、石田麻紀さん「DECO BAG」と草深仁志さん「AIRQUIN」に塩ビ業界一丸のデザイン発掘コンテスト。3回目迎え注目度さらにアップ。

「PVC Design Award 2013」展示会、東京・大阪・名古屋・福岡で連続開催

○シリーズインタビュー/さきがけびとにきく

「人間学」としての環境問題

多面的な環境問題を正しく判断するには、人間社会をしっかりと見つめる視力が必要。

東京大学大学院 工学系研究科 教授 平尾 雅彦 氏

○インフォメーション

レポート「震災から3年、住まいエンベロップ・デザインを改めて考えるシンポジウム in 仙台」

省エネ、CO₂削減などの課題解決へ、被災地における住宅外皮の役割を探る。

○海外事例紹介

APVN 加盟国の報告から

アジア・欧州地域の塩ビ最新事情と政策動向など。フィリピンで第18回会合。

○塩ビ最前線

1. 「Ori美」であそぼ！

軟質塩ビシートがキラキラ「おりがみ」に。その多彩な魅力と可能性。

2. 塩ビ板を使った「祈りのアート」

「神戸ビエンナーレ 2013ーしつらいアート国際展」で入賞作品に。

○広報だより

- ・「郡山水道展」で塩ビ管の耐震性、耐久性などをPR（塩化ビニル管・継手協会）
- ・「2013年 子どもとためす環境まつり」に5年連続出展（VEC）

いくつか記事をご紹介します。

「トップニュース」は3回目を迎えた「PVC Design Award 2013」の表彰式と各地で行った展示会を紹介しています。デザイン提案220点、製品応募107点と昨年を上回る応募があり、多くのプロのデザイナーや加工のプロの方々にも応募いただきました。塩ビ業界一丸で取り組んでいるデザインアワードが広く認知されてきているように感じました。

大賞は二点「AIRQUIN（エアキン）」と「DECO BAG」。優秀賞は「AIR CELL」と「CELL」。とても完成度が高く審査員の方々も驚かされていました。

「さきがけびとにきく」には東京大学の平尾先生に登場いただきました。

LCAは、環境負荷の評価手法としては確立していてインベントリ・データベースもかなり充実してきているが、素材や製品選択の意思決定ツールとしては十分かという、まだまだ限界がある。エコマテリアルという考え方と異なるが、マテリアルにエコもエコじゃないもなく、人間の行動が素材をエコに変えるのである。素材の良し悪しというのは、毒性の有無だけを見るのではなく、それを適正な場所で適正に使い、どう循環させるか、あるいはどう処分するか、その全体の仕組みの中で判断できるのであって、つまりは人間、組織、社会の問題なのである。

要は使い方の問題なのであって、その議論もせずに素材だけで良し悪しを言うのはあまりフェアじゃないと考えを述べられています。

「塩ビ最前線」は硬質の塩ビ板を使ったアート作品を紹介しました。

デザイナーからの問い合わせから始まり、様々なプラチックの素材による透明性や耐候性など機能の違いを説明し、最終的に塩ビの板を使って作品を作ってもらえることになりました。塩ビの板に七色に光る特殊塗料を塗布したカッティングシートを貼り、世界各国の言葉を作品のタイトル([WEAVING MESSEGE](#))のようにつないでいました。

もう一つは「PVC Design Award 2012」特別賞受賞作品の「Ori美」を紹介。

塩ビおりがみ「Ori美」の世界を紹介する「ジュエリーおりがみ～きらきらおもちゃで遊ぶ」が、7月31日～8月31日まで、東京文京区の「おりがみ会館」で開かれ話題を集めました。

おりがみ会館に来られた方々は、紙とは違うプラスチックのおりがみに多くの方が触れて、見る角度を変えて光の変化の様子などを確かめられていました。



『PVCニュース』は[JPECのホームページ](#)から、最新号、バックナンバー共にご覧いただけます。

ご講読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

◇日本のお祭りシリーズ（その9） ー八戸「えんぶり」ー

関東学院大学 織 朱實

日本のお祭りシリーズは、「みちのく五大祭り」の秋田男鹿半島の「なまはげ祭り」から始まり、今年の最後は八戸の「えんぶり」です。ちなみにみちのく五大祭りは、なまはげ紫灯祭り、八戸えんぶり、横田かまくら、弘前城雪灯籠祭り、いわて雪祭だそうです。

えんぶりは、2月中旬に八戸で行われる青森に春を呼ぶ伝統行事です。その年の豊作を祈願するお祭りで、「太夫」と呼ばれる舞い手が馬の頭をかたどった華やかな烏帽子を被り、頭を大きく振る迫力のある踊りが特徴で、この踊りは田植えを表現しているそうです。太夫の踊りも迫力があって素晴らしいのですが、合間に演じられる子供の大福様などの祝い踊りも、ユーモラスな動きがとてもかわいらしいです。子供だけが踊る「子供えんぶり」もたいそう可愛らしかったです。



市内に30組以上あるという「えんぶり組」が、お祭りの期間は、各場所でその組独特の踊りを披露してくれるという3日にわたる長く、濃いお祭りです。組ごとに踊り方や衣装も異なるので、雪の八戸の市内はお祭りの時期は、ぱーっと華やかな原色に彩られます。また、同じように見えるえんぶりの踊り方にも、2種類あって、動きが速いえんぶりの組とゆったりした昔ながらのえんぶりの組。どちらも、風情がありました。



初日の早朝に、八戸市長者山の新羅神社にお参りをしたえんぶり組は、そのあと一斉摺りを行い、各家に門付けをして踊りを披露しながらご祝儀をいただいています（ので、その間車はストップして終わるのを待っています）。八戸では、夏祭りと同様市全体をあげてのお祭りで、大人も子供も参加しているので、学校もこの期間はお休みだそうです。お祭りにそなえて、子供たちは学校が終わると地区の体育館や公民館で大人たちから、踊りの指導を受けているそうです。地域でこうやって大切な伝統行事が守られていっているのは、本当に素晴らしいですね。

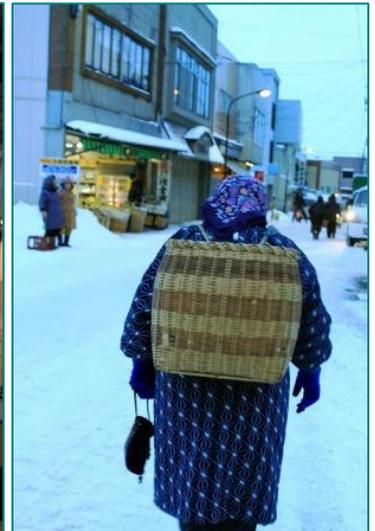
烏帽子をかぶった男集に、大黒さん、子供えんぶり。農閑期に、大名（お金持ちの御屋敷）に出向いて、踊った踊りということですが、明治維新直後には、「物乞いに似た行為」として当時の県より一時禁止令が発せられたこともあったそうです。これが、明治14年に当時の有力者（大澤多門ら）により八戸町内（当時）の長者山新羅神社の神事として復興されたそうです（Wikipediaよりの情報ですが）。





当時の様子をしのばせるえんぶりが「お庭えんぶり」。お庭の雪つりや灯籠が素敵な旧家で演じられます。雪の中での、えんぶりは本当に素敵でした。終日、朝から夜までいろいろな場所で演じられているえんぶりを、「これでもか！」という位見せていただきましたが（笑）、このお庭えんぶりが一番印象深かったです。やはり、夜、小雪ちらつく中、たいまつ光の下で、というのがいいのですよね。

えんぶりも堪能し、屋台村で美味しいほや、せんべい汁と日本酒をいただき、翌日は別件で仙台へ行かなければならなかったのですが、せっかく八戸に来たのですから温泉に入らないと！最後に、ホテルから、朝6時に「温泉と朝市タクシー」1500円というのがあり、乗り合いタクシーで湊の市場と温泉につれていって来て8時にホテルもどり、という素晴らしいプランにのりました。陸奥湊駅前の市場には、名物の「イサバのかっさ」と呼ばれる魚商のおばさまたち。元気に魚を売っていました。



ところで、紫灯祭りの時もそうだったのですが、地元の方に「寒いから、寒いから」としつかり脅されていたので、完全防寒で向かったため、地元のかたが「寒い、寒い」といっておられる中でも、意外なことに東京もんだけが平気だったという。北国の方が暖房が効いているので、意外と寒がりということもありますよね。

さて年末には酉の市、羽子板市とおめでたいお祭りが続くので、寒くなりますがこれもまた楽しみです。

⇒ [ブログはこちらです。](#) [\(八戸えんぶり\)](#)

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

今年も残り少なくなり、大河ドラマ「八重の桜」も最終回を終えました。来年は「軍師官兵衛」が始まり、主役も綾瀬はるかさんから岡田准一さんにバトンタッチになります。先日、黒田家菩提寺である崇福寺に黒田如水公の威厳のある墓所を訪ねました。来年も、黒田節で知られる母里太兵衛に習って酒を酌みながら、その活躍を楽しみたいと思っています。

今年のメルマガは今号で終わり、来年は1月9日(木)からのスタートとなります。

今後ともよろしく願いいたします。(円行)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp